

## IGLからのお知らせ/お茶大論ロールモデル講演/日本IBM見学会の報告/ベトナム女性学院来訪

### 【お知らせ】大学院共通科目集中講義「アカデミック女性リーダーへの道(実践編)」について

大学院生を対象とした集中講義「アカデミック女性リーダーへの道(実践編)」が、2018年2月7日(水)より始まります。研究計画・資金調達・プレゼンのコツを全4回(2/7、2/14、2/20、2/21)の講義で学ぶことができ、さらに『応募書類作成実践』として、審査委員経験者の教員・日本学術振興会特別研究員から個別アドバイスをもらうことができるなど、博士前期・後期課程の学生におすすめの内容となっています。

履修登録する学生(聴講を含む)は、**2018年2月6日(火)までに、学務課窓口にて申し込み手続きを**してください。

2月20日(火)の授業は公開講座『魅せるスタディ・プレゼンテーション(1)』として、より多くの学生が参加できるようにしました。こちらも事前申込制で、申込方法は以下の通りです。

締切: 2/16(金)15時

申込方法: メール(info-leader@cc.ocha.ac.jp)

- ・件名: 【申込】スタディ・プレゼン(2/20)
- ・内容: 学籍番号・氏名・学年・専攻名・発表するor聴講のみを記載

#### 【授業スケジュール】

第1日 2月7日(水)10:00-16:30

**審査委員経験者等による講義**

**日本学術振興会特別研究員による体験談および討論**

第2日 2月14日(水)10:00-16:30

**応募書類作成実践**

\* 教員・学振特別研究員からの個別アドバイス

※日本学術振興会のサイトの、特別研究員制度の概要をよく読み、各自で該当する「申請内容ファイル」をダウンロードし下書きした申請書等を持参してください。

※ご自身の申請分野(文理問わず)を2/7(水)までにメールにてお知らせください。また、申請書の原稿を2/11(日)までにメールで提出してください。

第3日 2月20日(火)13:00-16:30

**魅せるスタディ・プレゼンテーション(1)**

ショートプレゼン + 作成スキル・レクチャー  
十文字学園女子大学教授 池田 まさみ

第4日 2月21日(水)13:00-16:30

**魅せるスタディ・プレゼンテーション(2)**

模擬プレゼン + 質疑応答&アドバイス  
十文字学園女子大学教授 池田 まさみ

【お問合せ先】グローバルリーダーシップ研究所

info-leader@cc.ocha.ac.jp

## IGL国際シンポジウムを開催します! (2017.12.5)

【タイトル】“Women Taking the Lead: Women’s International and Social Leadership in East and Southeast Asia”  
(アジアにおける女性のリーダーシップ—国際・社会組織の経験から)

【日時】2017年**12月5日(火) 16:40~19:00**

【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館101室

【対象】本学学生、大学院生、教職員、一般の方

【講演者】

○基調講演者

広瀬 晴子(お茶の水女子大学 理事)

○ディスカッサント

趙 成南(韓国 梨花女子大学校社会学 教授)

○モデレーター

カレン・シャイア(お茶の水女子大学 海外特別招聘教授)

○パネリスト

アニス・ヒダヤ(インドネシア Migrant CARE事務局長、  
同移民研究センター長)

馮 媛(中国 為平(EQUALITY)女性權益機関共同発起人)

池田 恵子(静岡大学教育学部 教授)

崔 貞植(韓国 UNIアジア太平洋地域韓国協議会事務総長)

【備考】日英同時通訳あり。

**事前申込(当日受付あり)**

詳細は<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/> またはポスター等にて。



本学国際シンポジウム 国際共同開催決定! グローバルリーダーシップ研究の第一人者による最新研究発表と女性リーダーシップ実践の事例  
IGL国際シンポジウム International Symposium of the Institute for Global Leadership

### アジアにおける女性のリーダーシップ

国際・社会組織の経験から

## Women Taking the Lead:

Women's International and Social Leadership in East and Southeast Asia

本学国際シンポジウム 海外特別招聘教授、本学女子学生経験者による国際シンポジウムを開催します。日本およびアジア各地からゲストをお招きし、国際組織や社会運動における女性のリーダーシップについて、最新研究の成果に付き、ディスカッションを行います。

基調講演者 Keynote Speaker	パネリスト Panelists
広瀬 晴子 (お茶の水女子大学 理事) Haruko HIROSE (Ochanomizu University)	アニス・ヒダヤ (Migrant CARE事務局長、同移民研究センター長) 高 麗 (ワウ・メン) (財団 EQUALITY 女性権利運動推進員) 趙 成南 (韓国梨花女子大学社会学教授) Sung-Nam CHO (Seoul Women's University)
ディスカッサント Discussant	モデレーター Moderator
趙 成南 (尹・ソナム) (韓国梨花女子大学社会学教授) Sung-Nam CHO (Seoul Women's University)	カレン・シャイア (お茶の水女子大学 海外特別招聘教授) Karen A. SHIRE

2017/12/5(火) 16:40-19:00 (開場 16:00)  
Tuesday, December 5, 2017, 16:40-19:00

会場: お茶の水女子大学 共通講義棟2号館101室 (会場: Room 101, 2nd Floor, Building 2, Ochanomizu Campus)  
東京都文京区大塚2-1-3 2F Ochanomizu Building, Tokyo  
(最寄り駅: 有明駅) 有明駅西口徒歩約10分(有明駅西口から徒歩約10分)  
(15-minute walk from Hongo Station or Gokiso Station on the Tokyo Metro Line)  
対象: 本学学生、大学院生、教職員、一般の方  
日本語同時通訳あり (Simultaneous interpretation available (English/Japanese))  
要事前申込 (要事前登録) (Pre-registration required (Pre-registration))

参加申込 Registration 開催日12月5日 17時

QRコード、申込フォームよりお申し込みください  
申込先: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/online/leader/2017/Registration/>  
お問い合わせ: お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所  
E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学 主催 国際共同開催決定! グローバルリーダーシップ研究の第一人者による最新研究発表と女性リーダーシップ実践の事例  
IGL国際シンポジウム 国際共同開催決定! グローバルリーダーシップ研究の第一人者による最新研究発表と女性リーダーシップ実践の事例  
IGL International Symposium of the Institute for Global Leadership, Research Organization for the Promotion of Global Women's Leadership, Ochanomizu University

武田幸子氏(株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会イノベーション協創統括本部企画室)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演3(6月28日)は、理学部数学科卒で、現在、株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会イノベーション協創統括本部企画室にお務めの武田幸子さんをお招きし、学生時代の就活の様子や、入社当時から現在に至るまでの仕事内容、仕事と家庭とのバランスなどについてご講演いただきました。

武田さんが就職活動を始められたのは学部3年の秋・冬頃からで、**自分が何に喜びを感じるのか**、自分の長所・短所、将来の夢など自己分析を始められたそうです。その中で、自分はじっくり考え、解決策を導き出した時に喜びを感じることに気づき、自分のアイデア・仕事を通じて社会に役立つことをしたいと思われるようになりました。そして、社会に必要な不可欠で、かつ自分も利用者となる「通信」「ネットワーク関係」の研究を希望されるようになります。

日立製作所に入社後、武田さんはネットワークサービスが発展する時代に研究開発に従事することとなります。1992年に研究開発の一担当者として働き始め、ネットワークサービスの研究開発やお客様への提案活動などを行ってこられました。研究開発の一環として、世界のどこでも電話がつながるよう、国際標準化会合にも参加されました。入社3年目に初めて参加した国際標準化会合(スイス・ジュネーブ)でのミッションは、社内との関係部署に結果を報告することでした。会合では、発言することが参加者として認められる条件であると知り、二回目以降は提案を持っていくなどの工夫をされたといいます。その結果として、提案が標準仕様に採用されることとなり、標準仕様は提案・交渉を通じて作り上げるものであることを実感されたそうです。また、武田さんは、2008年からの2年間、研究所を離れ、システムエンジニア(SE)として働かれましたが、ここでの経験は、研究者としてのあり方を考えるきっかけの一つとなったといいます。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 AA 大持ほのか/同特任講師・お茶の水女子大学論担当 大木直子)

これまでの業務経験から学んだことを、武田さんは次のようにまとめていました。まず、SEの仕事を通じて、様々な関係者(お客様・社内)と協力し、大きな仕事を達成する喜びや、「事業」として成立させることの大変さと大切さ、そして「一緒に仕事ができよかった」と言われたことの喜びなどを知ることができたこと。また、研究開発(取りまとめ)では、**メンバーとのコミュニケーションの大切さ**を再認識したこと。皆で決めた目標に向け、チームをリードすることの楽しさと難しさ、さらにその成果をタイミングよくアピールすることの大切さも痛感したとのこと。そして、現在の企画業務でも、多くの尊敬できる仲間を支えられて、世界各地のメンバーと仕事を推進する中で、お互いの時差の壁を感じつつも、多様な文化・考え方を学びながら、日々仕事をしているといいます。

これまで、武田さんはアイデアが製品に搭載あるいは規格にされた時や、壁を乗り越え、大きな目標を達成した時などに喜びを感じてきたけれど、仕事を続けることができた理由は、**多くの尊敬できるメンバーに支えられつつ、その人たちと共にできるという環境があったから**だと主張されます。また、**仕事だけではなく、プライベートにおいても、前向きな目標を持ち、両立の方法を自分で考え続ける**ことを心がけているといいます。武田さんの言葉を借りれば、「連立方程式を解く感覚」でいることが大切とのこと。

最後に、ご自身の25年間のキャリア経験から、「**目標を見つけチャレンジする」「壁にぶつかっても、諦めず、前向きに」「沢山やりたいことを両立するために、自分で考え続ける**」などの学生へのメッセージをいただくことができました。

質疑応答では、学生から「英語力の必要性」や「開発研究に携わる中、新しいアイデアを得るために普段していること」、「仕事が忙しい夫婦間での時間の取り方について」などの質問が寄せられました。

受講者の声(一部抜粋)

- 企業の研究職がどのようなものかを知ることができ、私も理系なので参考になる話がたくさんありました。
- 文化、言語の壁を乗り越えてお仕事をされているというのは憧れます。さらには趣味、家庭との両立もなさっていてすばらしいと思いました。
- 数学科のご出身で、数学関係のみならず、様々なお仕事をなさっていて、自分が生物学科でこれからどんな仕事をしようか、できるか悩んでいましたが、可能性はたくさんあるんだなと思いました。
- 大学での学びやサークル活動は、直接は仕事につながらないとしても、考え方を身につけたり、様々な体験をしておいたりすることは将来どのような道に進んでも役に立つのだなと思いました。



講演者の武田幸子氏

小島みさお氏(花王株式会社 ヒューマンヘルスケア事業ユニット サニタリー事業グループ 開発リーダー)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演4(7月12日)は、家政学部家庭経営学科卒で、現在花王株式会社にお務めの小島みさおさんをお招きし、大学時代のお話から就活、そして入社後のキャリア、またご自身の仕事・家庭・ボランティア活動についてご講演いただきました。

小島さんは、大学時代に受講した「消費者教育」という講義で、日本ヒープ(HEIB:Home Economists In Business)協議会の活動を知りました。チャレンジの幅が広がると思い、その活動の中心である花王に入社され、**生活者と企業のパイプ役としてのメーカー勤務の道**を進むことになりました。

現在、花王に勤務して27年目となる小島さんは、これまで、相談対応、生活者研究、啓発活動、そして商品開発に携わってこられました。

生活者研究では、高齢者の家庭・施設などを現場訪問し、そこでの対話・観察を通じて、新たな提案をするということを行われました。

また、啓発活動では、介護サポートセンターという部署で、シニア・高齢者への相談対応や学術活動を行われました。今までの相談対応での商品説明と異なり、**相談者の悩みを聞きながら、問題解決へと導く**というのが主な業務内容だったそうです。さらに、高齢者への啓発として、紙おむつのあて方動画の配信やシニア向け雑誌への掲載、イベントでの啓発・情報提供、看護・介護専門職員への説明会なども行われました。

そして商品開発では、**化学会社だからこそ全てを自社で対応して開発できるという花王の強み**を活かして、数々の商品を担当されました。事業部でコーディネーター(=開発担当者)として働いている小島さんは、様々な部署と協働する、提案する必要がある職場なので、変化を楽しめる人には良い環境であるとお話していました。

以上のようなキャリアと共に、ご自身のプライベートでも充実した日々を過ごされているそうです。結婚、

出産後も、保育サービスを有効活用しながら、通信教育で介護福祉士の資格を取得したり、土日に少年野球のアナウンスを担当するなど、ご自身の生活も楽しんで過ごしていたといいます。このように家庭と仕事との両立を図ることで、ベストヒープ賞を受賞したり、就職ジャーナルに掲載されたりと、様々な機会にも恵まれたそうです。そして、現在は、社会人大学院生として週2、3回は大学院に通われています。

また、職場と大学に通う傍ら、排泄に関する電話相談を行うボランティア活動も積極的に行われているそうです。小島さんにとって、**ボランティアはご自身のライフワーク**となっているといいます。例えば、NPO法人日本コンチネンス協会では理事として、コンチネンスケア、つまり排泄障害の予防・治療・ケアに関しての無料の電話相談に、10数年関わっていらっしゃいます。

小島さんは、**仕事を通して、臨床・教育・研究が連関した、専門職としての基盤が得られた**と言います。また、**①現場観察と対話の大切さ、②モノと情報から、サービスを如何に提案していくかの面白さ、③鳥の目、つまり社長や部長など上の人の目で見るとの必要性、④昨日の自分を超越、リニューアルを楽しむことが重要**であると知ったそうです。

最後に学生に対して、学生時代にはとにかく**チャレンジして、失敗をバネにすること、多世代・多国籍などの人と出会い、人脈力を磨くこと、高い目標を持つこと**を大切にしてほしいというアドバイスをいただきました。小島さんご自身も、今後の目標としてコンチネンスケア学の学びの場をつくることを掲げていらっしゃるように、**人生はずっと楽しめるもの**だということを教えていただきました。

質疑応答では、「配属や異動はどのように行われたのか」、「日本ヒープ協議会の具体的な活動はどのようなものなのか」、「どのようなことに心がけて常にアクティブに活動されているのか」などの質問が寄せられました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 AA 大持ほのか/同特任講師・お茶の水女子大学論担当 大木直子)

受講者の声(一部抜粋)

- ▶ 今日のお話を聞いて、“すべての経験はつながっている”ということを実感しました。
- ▶ メーカー勤務の道を選ぶことで、特定のジャンルに限らず、多様な分野にかかわることができるという考えは持っていなかったもので、新たな視点を得られた気分だった。
- ▶ 「最後に『失敗を恐れずやってみよう!』と言ってくださいでしたが、背中を押していただけたような気がしました。ありがとうございました。
- ▶ 就職してからも自分の知識を増やすために様々な資格を取ったり大学院に進学されたりしていて、学び続ける姿がかっこいいと思いました。就職がゴールではなく、むしろ自分が知らない世界へのスタートラインなのだと思います。



講演者の小島みさお氏

山田庸子氏(東京都立小児総合医療センター心理福祉科 臨床心理士)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演5(7月19日)は、家政学部児童学科卒で、現在東京都立小児総合医療センター心理福祉科にお務めの山田庸子さんをお招きし、臨床心理士としての仕事や、働く中で感じていることなどについてご講演いただきました。

最初に勤務された都立の療育園では、新人・ベテラン問わず、一定の水準で仕事をするのが求められたそうです。(新人の自分が) **全くできないことに直面したことで、素直にゼロから学ぼうと感じるようになった**と、当時の様子を振り返られました。

3つ目の職場である都立病院では、がん診療や緩和ケアが行われていました。この病院で取り入れられたのが「**リエゾン(=繋ぐ、連携)**」で、患者さんにカウンセリングなどの心理的支援も行うことで、包括的な医療サービスが出来るようになっていました。山田さんは、医療の質を高め、その過程で得た学びを患者さんに還元したいという気持ちで仕事をしてきたそうです。

いくつかの病院に勤務した後、また前のがん診療の職場に戻りました。神経科リエゾンチームのリーダーとして働くことになり、山田さんは、心理学を活用して、**それぞれの人が働きやすいよう調整するコーディネータのようなリーダーを目指した**と言います。この職場では、**組織や医療経済を含めた俯瞰的視点を持ち、他職種との協働の上でリーダーシップを発揮することを実践してこられました。**

そして、2016年4月から現在まで、都立小児総合医療センター心理福祉科の児童精神科病棟専従として働かれています。最近では、より複雑化したケースも増えており、より丁寧な支援が求めら

れているといます。今後は、対象となる子どもたちとの年齢差が開く中、どのように対応を変えていくか、後輩の指導などに対して、いかに取り組んでいくかが課題だそうです。また、東京都の職員は、異動が定期的にあるため、職員の育成という面で、**より短い時間で体得できるようマニュアル化が必要ではないか**と指摘されました。

以上のご自身の経験を通して、働くなかで感じていることについてもお話いただきました。まず、**ロールモデルの存在を参考にして働くことを挙げられました**。また、「**主体的な受け身**」という**スタンスに立ち、対象となる人の主体性を尊重する態度で接することが出来るよう技術も研鑽していき、与えられたものに対してどう取り組むかを考えられるようにしたい**ということでした。

仕事内容に加えて、ご自身の私生活についてもお話いただきました。家族・友人を大切に、趣味を楽しみつつ、好きな仕事をしていくことを大切にしているとのことでした。

最後に、学生に対して、人は人の間でしか磨かれないので、**人と接することを恐れず、憧れる気持ちを大切に、良い点を取り入れていくようにしてほしい**というアドバイスをいただきました。

質疑応答では、「管理栄養士を目指しているが、管理栄養士として摂食障害の問題に携わることは可能か」、「遺伝カウンセラーに興味があるが、カウンセラーに求められる資質などあるか」、「障害者福祉施設でボランティアをしようと思っているが、どのようなサポートが必要、あるいは出来るのか」などの質問が寄せられました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 AA 大持ほのか/同特任講師・お茶の水女子大学論担当 大木直子)

### 受講者の声(一部抜粋)

- 公務員としての働くスタイルや昇進のシステムは初めて耳にする内容でした。
- 実体験を交えて話してくださったので、よりリアルに理解することができました。
- 「人と接することを恐れない」、「いろいろな尊敬する人のパッチワークで自分ではできている」という言葉が心に残りました。人と交わり接しなければ、気付きもなくなり、価値観も固定化し、視野も狭まってしまうので、自分の可能性を妨げることになると思います。新しい人と知り合い、交流することを楽しみたいと思います。
- 「皆が力を発揮しやすい調整役としてのリーダー」を目指したという話がとても参考になりました。



講演者の山田庸子氏

刑部南月子氏(田園調布雙葉中学高等学校 理科教諭)

2017年度「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演6(7月26日)は、理学部生物学科卒で、現在田園調布雙葉中学高等学校に理科教諭としてお務めの刑部南月子さんをお招きし、ご自身の経験や進路選択、大学院あるいは教職を目指す学生へ向けたメッセージなどについてご講演いただきました。

刑部さんは、同学園に小学校から高校まで通われ、お茶の水女子大学に入学されますが、大学卒業後の進路については教育に進むか、あるいは研究に進むかで迷いがあったといいます。教育については、学部生時代から、高校生の授業でのTA経験や大学のアウトリーチ活動などを通じて、自分が面白いと感じていることを積極的に共有することに喜びを感じていたそうです。刑部さんのロールモデルである先生は、学校の先生をしながら、研究でも成果を出していたそうで、学校教育にも関心を抱くようになったといいます。

進路を考える上で、まず「本当に自分は研究が好きで、何よりも研究を優先しているだろうか」という点を振り返り、その点は問題なかったそうです。しかし、次に「職業として『研究』できるか」という問題がありました。何かを追究したいという研究肌と、研究者としての能力・精神があり、加えて興味があること以外も研究することができる研究者肌というのは異なります。「人類にとって未知の事実を、自分が掴むことに喜びを感じられるか」という問いを自問自答した際、刑部さんが出した答えはそうではないかもしれない、というものでした。そして、「**自分是对『何』に興味があるのか**」を考えた時に、可能性を秘めた中高生を相手にしたイベント企画への参加を思い返し、「**人**」に興味があることに気が付いたそうです。

自分が好きな職業を選ぶ方法として、興味があるものをどんどん書き出して、グルーピングして、キーワードを見つける方法をご紹介します。さらに、**興味があるものをどんどん掘り下げて**

「**根っこ**」を掘む、つまり共通項が何なのかを把握してみることも大切だと言います。刑部さんは、この方法で、知識を集め、新しい意味づけをすること、面白さの共有が共通しており、キュレーターの役割が合うのではと思います。

本学大学院博士前期課程の在籍時、附属中学校で非常勤理科講師として働く機会を得て、その面白さを知り、学校現場に惹かれていることに気付かれます。教育に携わるためにも、**自分の専門分野を持つこと、研究機関を離れても生徒の探究活動を応援し、自身も研究を続けていけるような知識や技術を身に付けることを目的に、博士課程へと進学**されたそうです。現在、教師として学生と携わる中で、**学生の「何でだろう」という疑問を大事にして、何をどのように教えるかという無限の可能性を試していくことができると考えている**そうです。

学生へのメッセージとして、一体自分は何が好きなのか、どんなことに興味を持っているのか、どのような方向に進みたいのかについて、**とことん悩み、やりたいことがある場合は迷わずとりあえず飛び込んで、経験を積んでほしい**というお言葉をいただきました。そして、10年後、20年後にどういふ姿になりたいかをイメージし、とことん悩み考えぬいたと自信を持って、進路を決めてほしいということもおっしゃっていました。そのためにも、**小さなことでも、目立たないことでもいいから、「私はこれを頑張った」「これを大切にしていきたい」と言えるものを作ってほしい**といいます。言葉にして表現できる、言語化できることの重要性を主張されました。

質疑応答では、「これからの人生の目標は何か」、「将来、中高の校長になりたいが、どのような経験を積みばよいか」、「お話がとても上手だが、学生時代、人前で話す機会はあったのか」、「大学院進学を考えているが、気持ちの面でアドバイスがあるか」などの質問が寄せられました。

(文責:グローバルリーダーシップ研究所 AA 大持ほのか/同特任講師・お茶の水女子大学論担当 大木直子)

受講者の声(一部抜粋)

- 進路を考える時、自己分析を深めると同時に、様々な活動を実際に行ってみて答えを見つけていくという方法が実践的で、自分もそのように進路を決めたいと思った。
- 大学1年生でキャリアを考えるこの授業をとって良かったなと思いました。これからの大学生活をどう過ごすかを考える良い機会になりました。
- 不安になったときに、なぜ不安になるのか考えるのは大学院入試の際だけでなく、とても大切な考え方だと思った。
- 自分で決めたことだ、という自信を忘れないようにしたい。



講演者の刑部南月子氏

芝浦工業大学男女共同参画推進室 内藤 和美  
お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 小濱 聖子

工学系分野に対する関心を高め、工学研究および工学関連産業への理解をいっそう深めるため、お茶の水女子大学と連携機関である芝浦工業大学では2017年8月24日、女子大学生・大学院生と附属の女子中高生を対象に、日本アイ・ビー・エム株式会社(東京都中央区日本橋)の見学会を開催しました。

まず、研究開発戦略&オペレーションズ Technical Vitality & University Relationsの辻智部長より、IBM (International Business Machines Corporation) および日本アイ・ビー・エム株式会社について説明がありました。コンピュータ関連サービス企業としての歴史の長さ、経営理念、グローバル企業IBMの一員であること、CEO、従業員数、事業、研究所が本社内にあることの意義などのほか、経営理念 Corporate policy 117にあるWorkforce Diversity(人材の多様性)および「教育に飽和点はない」という考え方が強調されました。また、事業に関しては、データという資源の価値や、IBMのAI(Augmented Intelligence、拡張知能)であるIBM Watsonの挑戦と可能性を詳しくお話しされました。

次に、同部署の沼田祈史課長(お茶の水女子大学卒業生)と加藤直子課長(同左)のご案内により、クライアント・エクスペリエンス・センター(IBM Client Experience Center)のツアーが行われました。参加者は100年余にわたるIBMの技術開発の歴史を辿る展示、観客の感情をリアルタイムに光で表わすコグニティブ・ドレス(Cognitive Dress)、IBM Watsonを使ったバーチャル・リアリティなどIBMの先端技術に触れ、Watson IoT プラットフォーム(Watson IoT Platform)、セキュリティ・オペレーション・センター(Security

Operation Center)、さらにIBM テクノロジー・センター(IBM Technology Center)を見学しました。データ・サイエンティストやアナリストがリアルタイムで監視作業を行っているようすを見せていただきました。Watson IoT プラットフォームでは、日本アイ・ビー・エム株式会社がさまざまな業界の顧客企業と組んで行っている「モノのインターネット」の開発に触れ、従来の人間の労力とカンと経験がAIに置き換えられていく場面を垣間見ることができました。IBM テクノロジー・センターでは、折り紙構造が印象的なメイン・フレーム・コンピュータ IBM z Systems、サーバーのIBM Power Systems、コンピュータのデータを格納する記憶装置IBM System Storageを間近で見学し、説明を受けました。

最後に、女性技術者のキャリア紹介では、グローバルテクノロジーサービス事業本部より青山真巳シニア・アーキテクトと箱嶋未帆アドバイザー・アーキテクトがお話しされました。青山氏は自己紹介とこれまでのキャリアと転職、現在の業務であるオートメーションとWatsonを利用したシステム運用管理について話され、「学生時代からの興味関数」「会社に入ってからのもフィーリング関数」という自己分析の部分では、女子学生・生徒も興味津々でした。次いで、お子さんをもつ箱嶋氏が、ワーク・ライフ・バランスを含むキャリアの紹介をされました。

参加者アンケートには、「とても刺激を受けた」、「IBMに興味を持った。インターンなどでもっとIBMのことを知りたいと思った」、「(青山氏と箱嶋氏のお二人が社会科学系学部の出身だったことについて、)文系の人も働くことができることを知らなかった。たいへん魅力を感じた」などの感想が寄せられました。

(文責:芝浦工業大学男女共同参画推進室 内藤和美/お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 小濱聖子)



企業説明の様子



コグニティブ・ドレスの説明を聞く学生

# リーダーシップ教育・研究に関する海外高等教育機関との連携についての報告 日越リーダーシップ教育勉強会(2017.9.21-22)

2017年9月21日(木)および22日(金)に、グローバル女性リーダー育成研究機構(グローバルリーダーシップ研究所・ジェンダー研究所)は、先進的なリーダーシップ教育・研究を行う海外の教育機関等との連携のため、日越リーダーシップ勉強会を開催しました。Nguyen Thi Hoai Linh氏(ベトナム女性連合(Vietnam Women's Union(VWU))国際協力局長)、Tien Quang Tran氏(ベトナム女性学院(Vietnam Women's Academy(VWA))学長)を招待し、日越のリーダーシップ教育に関する研究交流として研究会や公開セミナーなどを行いました。

初日は両機関の親睦を深めるために、猪崎弥生理事・副学長、広瀬晴子理事、森田育男理事・副学長、森山新国際教育センター長、原智佐グローバル協力センター副センター長、小林誠教授、塚田和美IGL所長、宮尾正樹教授、カレン・シャイアIGL海外特別招聘教授、小松翠IGL特任講師が参席しウェルカム・ランチ会議が行われました。午後の研究会では、両機関のリーダーシップ研究や教育・女性社会進出

の現状などについて報告・意見交換を行い、大変充実した内容となりました。

また、2日目午前中は、学内の教職員・学生を対象とした公開セミナー(“Gender Equality and Economics in Vietnam”(司会 足立眞理子教授(ジェンダー研究所)・カレン・シャイア海外特別招聘教授(グローバルリーダーシップ研究所))を開催し、約20名が参加しました。Linh氏からは、“VWU efforts to promote gender equality in Vietnam (focusing on gender-based violence)”、Tien氏からは、“Gender gap in the workforce market of Vietnam and the VWA activity”をテーマにご講演いただきました。質疑応答では、Linh氏、Tran氏は一つ一つの質問に丁寧に答えてくださり、大いに盛り上がりました。食堂マルシェでの昼食交流会後、午後からは全体総括の会議が行われ、二日間に亘る勉強会は無事終了しました。

(文責)お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所  
小松翠(日越リーダーシップ教育勉強会コーディネーター)  
大持ほのか(AA)



9月20日  
昼食会の様子



9月21日午前  
公開セミナーの様子



9月21日午後  
全体総括の会議の様子

**【お問合せ先】**

グローバルリーダーシップ研究所  
人間文化創成科学研究科棟506室

Tel/Fax: 03(5978)5520

E-mail: [info-leader@cc.ocha.ac.jp](mailto:info-leader@cc.ocha.ac.jp)

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>